

## 製品安全データシート

### 1. 化学物質等および会社情報

製品名	タンクシール 主剤
会社名	シャープ化学工業株式会社
住所	大阪府堺市西区築港浜寺西町 13-12
担当部門	品質保証課
T E L	072-268-0322
制定・改訂	2010年11月1日

### 2. 危険・有害性の要約

#### GHS分類

##### 物理化学的危険性

	分類対象外
--	-------

##### 健康に対する有害性

急性毒性（経口）	分類できない
急性毒性（経皮）	分類できない
急性毒性（吸入：ガス）	分類対象外
急性毒性（吸入：蒸気）	分類できない
急性毒性（吸入：粉塵、ミスト）	分類できない
皮膚腐食性／刺激性	分類できない
眼に対する重篤な損傷／眼刺激性	分類できない
呼吸器感作性	分類できない
皮膚感作性	分類できない
生殖細胞変異原性	分類できない
発がん性	分類できない
生殖毒性	分類できない
標的臓器／全身毒性（単回暴露）	分類できない
標的臓器／全身毒性（反復暴露）	分類できない
吸引性呼吸器有害性	分類できない

##### 環境に対する有害性

水生環境有害性（急性）	分類できない
水生環境有害性（慢性）	分類できない

#### GHSラベル要素

##### 【絵表示またはシンボル】

なし

【注意喚起語】

なし

【危険有害性情報】

なし

【注意書き】

熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。－禁煙

この製品を使用するときに、飲食または喫煙をしないこと。

保護手袋、保護眼鏡、保護面、保護衣を着用すること。

屋外または換気の良い場所で使用すること。

取扱い後は良く手を洗うこと。

すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。

環境への放出を避けること。

火災の場合はABC粉末消火器、二酸化炭素、泡消火器を使用すること。

皮膚または髪に付着した場合、皮膚を多量の水と石鹼で洗うこと。刺激が生じた場合医師の診断を受けること。

眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易にはずせる場合は外すこと。医師の診断を受けること。

直射日光を避け、換気の良い冷暗所に保管すること。

内容物/容器を廃棄する場合は、該当法規に従い、都道府県知事に許可された産業廃棄物処理業者に委託すること。

使用済みの容器は、他の用途に使用しないで適正に廃棄すること。

3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区分      混合物  
 一般名                              二成分形ポリサルファイド系シーリング材（主剤）

主な成分及び含有量

成分	CAS NO.	含有率(%)	官報公示整理番号 (化審法)
法規制対象物質なし			

4. 応急処置

目に入った場合                      直ちに清浄な多量の水で最低 15 分間洗い流す。速やかに専門医の手当てを受ける。

皮膚に付着した場合                付着物を布にてすばやく拭き取る。  
 大量の水で洗い流す。洗い流してから水と石鹼で皮膚を洗浄する。

	外観に変化が見られたり、痛みがある場合には専門医の手当てを受ける。
飲み込んだ場合	安静にして直ちに医師の診察を受ける。口をすすぐこと。
最も重要な兆候および症状	特になし
応急措置をする者の保護	情報なし
医師に対する特別注意事項	情報なし

## 5. 火災時の処置

使用可能消火剤	A B CまたはB C型粉末消火器、二酸化炭素、泡消火剤
使用してはならない消火剤	棒状水
火災時特有の危険有害性	特になし
特有の消火方法	適切な保護具を着用する。 可燃性のものをすばやく周囲から取り除く。 指定の消火器を使用すること。
消火を行なう者の保護	消火者は必ず適切な保護具を着用する。

## 6. 漏出時の処置

人体に対する注意事項、保護具および緊急措置	曝露防止のため、作業の際には適切な保護具を着用する。 付近の着火源、高温体および付近の可燃物をすばやく取除き、風下の人を避難させ、関係者以外の立ち入りを禁止する。 着火した場合の備えて適切な消火器を準備する。
環境に対する注意事項	回収作業においては、火花を発生しない材質の用具を用いて回収する。 漏出液を下水や側溝等に流してはならない。 少量漏出の場合にはウエス等に吸収させて回収する。 大量漏出の場合、着火源を断ち蓋付きの容器に回収する。

## 7. 取扱いおよび保管上の注意

取扱い	
技術的対策	周辺で火気、スパーク、高温物の使用を禁止する。 皮膚、粘膜、着衣に触れたり、目に入らないように適切な保護具を着用する。
局所排気・全体換気	局所排気装置、全体排気装置のある換気の良い場所で取り扱う。
注意事項	密閉された場所における作業には、十分な局所排気装置をつけ適切な保護具を着用して作業する。

保管条件

取扱い後は手洗い等を十分に行ない、衣服に付着した場合は着替える。  
 幼児の手の届かない所に置くこと。  
 直射日光を避ける。  
 火気、熱源から遠ざける。  
 40℃以上になるところには置かないこと。

8. 暴露防止処置

物質名	管理濃度	日本産業衛生学会	ACGIH
対象物質を含まない			

設備対策

取扱い場所の近くには、高温、発火源となるものを置かないような設備とすること。  
 密閉場所で作業する場合には、排気装置を取り付けること。

保護具

目の保護                      保護眼鏡を着用する。  
 皮膚の保護                    不浸透性（ポリエチレン、ゴム製等）の手袋を着用する。  
 呼吸器系の保護              有機ガス用防毒、防塵マスクを着用する。  
                                      密閉された場所では送気マスクを着用する。

9. 物理および化学的性質

	内容物	
状態	ペースト	
臭気	メルカプト臭	
pH	データなし	
融点	データなし	
沸点	データなし	
引火点	>200℃	
発火点	データなし	
爆発範囲	データなし	
蒸気圧	データなし	
蒸気密度	データなし	
比重	1.37	
溶解性	水に難溶、有機溶剤に可溶	

オクタノール／水分配係数	データなし	
分解温度	データなし	
その他	データなし	

10. 安定性および反応性

安定性	通常の取扱い条件では安定
危険有害反応性	特になし
避けるべき条件	火気、熱源を避ける
危険有害な分解生成物	データなし

11. 有害性情報

急性毒性（経口）	対象となる物質を含まない
急性毒性（経皮）	
急性毒性（吸入：蒸気）	
急性毒性（吸入：粉塵、ミスト）	
皮膚腐食性/刺激性	
眼に対する重篤な損傷性/刺激性	
呼吸器感作性または皮膚感作性	
生殖細胞変異原性	
発がん性	
生殖毒性	
特定標的臓器/全身毒性（単回曝露）	
特定標的臓器/全身毒性（反復曝露）	
吸引性呼吸器有害性	

12. 環境影響情報

水生環境有害性（急性）	対象となる物質を含まない
水生環境有害性（慢性）	

### 13. 廃棄上の注意

---

残余廃棄物	都道府県条例に基づく焼却処分か、許可を受けた廃棄物処理業者に委託する
汚染容器・包装	内容物を使い切ってから分別廃棄する。

---



---

### 14. 輸送上の注意（取扱いおよび保管上の注意を参照のこと）

---

陸上輸送	消防法、道路法等に定められている運送方法に従う。
海上輸送	船舶安全法に定められている運送方法に従う。
航空輸送	航空法に定められている運送方法に従う。
国連分類	該当しない
国連番号	該当しない
特別の安全対策	転倒、落下並びに損傷がないように積み込み、荷崩れの防止を確実にこなう。

---



---

### 15. 主な適用法規

---

消防法	該当しない
労働安全衛生法	該当しない
船舶安全法	該当しない
航空法	該当しない
化学物質管理促進法	該当しない
毒物及び劇物取締法	該当しない

---



---

### 16. その他

---

記載内容については現時点で入手した資料に基づいて作成しておりますが、記載のデータ及び評価については必ずしも十分ではありませんので、取り扱いには注意してください。なお、記載内容は情報提供であって、保証するものではありません。

## 製品安全データシート

## 1. 化学物質等および会社情報

製品名	タンクシール 硬化剤
会社名	シャープ化学工業株式会社
住所	大阪府堺市西区築港浜寺西町 13-12
担当部門	品質保証課
T E L	072-268-0322
制定・改訂	2010年11月1日

## 2. 危険・有害性の要約

## GHS分類

## 物理化学的危険性

引火性液体	区分外
-------	-----

## 健康に対する有害性

急性毒性（経口）	区分外
急性毒性（経皮）	区分外
急性毒性（吸入：ガス）	分類対象外
急性毒性（吸入：蒸気）	分類できない
急性毒性（吸入：粉塵、ミスト）	分類できない
皮膚腐食性／刺激性	区分外
眼に対する重篤な損傷／眼刺激性	分類できない
呼吸器感作性	分類できない
皮膚感作性	分類できない
生殖細胞変異原性	区分外
発がん性	区分外
生殖毒性	区分2
標的臓器／全身毒性（単回暴露）	分類できない
標的臓器／全身毒性（反復暴露）	分類できない
吸引性呼吸器有害性	分類できない

## 環境に対する有害性

水生環境有害性（急性）	区分外
水生環境有害性（慢性）	区分外

## GHSラベル要素

【絵表示またはシンボル】



【注意喚起語】

警告

【危険有害性情報】

生殖能または胎児への悪影響のおそれの疑い

【注意書き】

熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。－禁煙

この製品を使用するときに、飲食または喫煙をしないこと。

保護手袋、保護眼鏡、保護面、保護衣を着用すること。

屋外または換気の良い場所で使用すること。

取扱い後は良く手を洗うこと。

すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。

環境への放出を避けること。

火災の場合はABC粉末消火器、二酸化炭素、泡消火器を使用すること。

皮膚または髪に付着した場合、皮膚を多量の水と石鹼で洗うこと。刺激が生じた場合医師の診断を受けること。

眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易にはずせる場合は外すこと。医師の診断を受けること。

直射日光を避け、換気の良い冷暗所に保管すること。

内容物/容器を廃棄する場合は、該当法規に従い、都道府県知事に許可された産業廃棄物処理業者に委託すること。

使用済みの容器は、他の用途に使用しないで適正に廃棄すること。

3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区分      混合物  
 一般名                              ウレタンプレポリマー

主な成分及び含有量

成分	CAS NO.	含有率 (%)	官報公示整理番号 (化審法)
アジピン酸ジ (2-エチルヘキシル)	103-23-1	5-15	2-861

4. 応急処置

目に入った場合                      直ちに清浄な多量の水で最低 15 分間洗い流す。速やかに専門医の手当てを受ける。

皮膚に付着した場合                付着物を布にてすばやく拭き取る。  
 大量の水で洗い流す。洗い流してから水と石鹼で皮膚を洗浄する。



	外観に変化が見られたり、痛みがある場合には専門医の手当てを受ける。
飲み込んだ場合	安静にして直ちに医師の診察を受ける。口をすすぐこと。
最も重要な兆候および症状	特になし
応急措置をする者の保護	情報なし
医師に対する特別注意事項	情報なし

## 5. 火災時の処置

使用可能消火剤	A B CまたはB C型粉末消火器、二酸化炭素、泡消火剤
使用してはならない消火剤	棒状の水
火災時特有の危険有害性	燃焼の際に生成する有毒な煙、蒸気または煙。一酸化炭素、窒素酸化物。火災の際、熱分解または燃焼により刺激性で有害性の強いガスが発生するおそれがある。
特有の消火方法	適切な保護具を着用する。 可燃性のものをすばやく周囲から取り除く。 指定の消火器を使用すること。
消火を行なう者の保護	消火者は必ず適切な保護具を着用する。

## 6. 漏出時の処置

人体に対する注意事項、 保護具および緊急措置	曝露防止のため、作業の際には適切な保護具を着用する。 付近の着火源、高温体および付近の可燃物をすばやく取除き、風下の人を避難させ、関係者以外の立ち入りを禁止する。 着火した場合の備えて適切な消火器を準備する。 回収作業においては、火花を発生しない材質の用具を用いて回収する。
環境に対する注意事項	漏出液を下水や側溝等に流してはならない。 少量漏出の場合にはウエス等に吸収させて回収する。 大量漏出の場合、着火源を断ち蓋付きの容器に回収する。

## 7. 取扱いおよび保管上の注意

取扱い	
技術的対策	周辺で火気、スパーク、高温物の使用を禁止する。 皮膚、粘膜、着衣に触れたり、目に入らないように適切な保護具を着用する。
局所排気・全体換気	局所排気装置、全体排気装置のある換気の良い場所で行う。

- 注意事項** 密閉された場所における作業には、十分な局所排気装置をつけ適切な保護具を着用して作業する。
- 取扱い後は手洗い等を十分に行ない、衣服に付着した場合は着替える。
- 保管条件** 幼児の手の届かない所に置くこと。
- 直射日光を避ける。
- 火気、熱源から遠ざける。
- 水と接触のおそれがない場所に保管すること。
- 40℃以上になるところには置かないこと。

## 8. 暴露防止処置

物質名	管理濃度	日本産業衛生学会	ACGIH
対象物質を含まない			

### 設備対策

- 取扱い場所の近くには、高温、発火源となるものを置かないような設備とすること。
- 密閉場所で作業する場合には、排気装置を取り付けること。

### 保護具

- 眼の保護** 保護眼鏡を着用する。
- 皮膚の保護** 不浸透性（ポリエチレン、ゴム製等）の手袋を着用する。
- 呼吸器系の保護** 有機ガス用防毒、防塵マスクを着用する。
- 密閉された場所では送気マスクを着用する。

## 9. 物理および化学的性質

	内容物	
状態	粘性液体	
臭気	なし	
pH	データなし	
融点	データなし	
沸点	データなし	
引火点	データなし	
発火点	データなし	
爆発範囲	データなし	
蒸気圧	データなし	

蒸気密度	データなし	
比重	1.05	
溶解性	水に難溶、有機溶剤に可溶	
オクタノール／水分配係数	データなし	
分解温度	データなし	
その他	データなし	

## 10. 安定性および反応性

安定性	通常の手扱い条件では安定
危険有害反応性	NCO基は水と反応して炭酸ガスを発生する。この反応が密閉容器内で起こると容器は膨れ、場合によっては破裂することもある。
避けるべき条件	共存禁止物質：アミン、アルコール、水。

## 11. 有害性情報

急性毒性（経口）	アジピン酸ジ（2-エチルヘキシル）	LD50 9100mg/kg （区分外）
急性毒性（経皮）	アジピン酸ジ（2-エチルヘキシル）	LD50 14752mg/kg （区分外）
急性毒性（吸入：蒸気）	アジピン酸ジ（2-エチルヘキシル）	分類できない
急性毒性（吸入：粉塵、ミスト）	アジピン酸ジ（2-エチルヘキシル）	分類できない
皮膚腐食性/刺激性	アジピン酸ジ（2-エチルヘキシル）	区分3
眼に対する重篤な損傷性/刺激性	アジピン酸ジ（2-エチルヘキシル）	分類できない
呼吸器感作性または皮膚感作性	アジピン酸ジ（2-エチルヘキシル）	呼吸器感作性：分類できない 皮膚感作性：分類できない
生殖細胞変異原性	アジピン酸ジ（2-エチルヘキシル）	区分外
発がん性	アジピン酸ジ（2-エチルヘキシル）	区分外
生殖毒性	アジピン酸ジ（2-エチルヘキシル）	区分2
特定標的臓器/全身毒性（単回曝露）	アジピン酸ジ（2-エチルヘキシル）	分類できない
特定標的臓器/全身毒性（反復曝露）	アジピン酸ジ（2-エチルヘキシル）	分類できない
吸引性呼吸器有害性	アジピン酸ジ（2-エチルヘキシル）	分類できない

12. 環境影響情報

水生環境有害性（急性）	アジピン酸ジ（2-エチルヘキシル）	区分外
水生環境有害性（慢性）	アジピン酸ジ（2-エチルヘキシル）	区分外

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物 都道府県条例に基づく焼却処分か、許可を受けた廃棄物処理業者に委託する  
 汚染容器・包装 内容物を使い切ってから分別廃棄する。

14. 輸送上の注意（取扱いおよび保管上の注意を参照のこと）

陸上輸送 消防法、道路法等に定められている運送方法に従う。  
 海上輸送 船舶安全法に定められている運送方法に従う。  
 航空輸送 航空法に定められている運送方法に従う。  
 国連分類 該当しない  
 国連番号 該当しない  
 特別の安全対策 転倒、落下並びに損傷がないように積み込み、荷崩れの防止を確実にこなう。

15. 主な適用法規

消防法 非危険物  
 労働安全衛生法 該当しない  
 船舶安全法 該当しない  
 航空法 該当しない  
 化学物質管理促進法 該当しない  
 毒物及び劇物取締法 該当しない

## 16. その他

---

記載内容については現時点で入手した資料に基づいて作成しておりますが、記載のデータ及び評価については必ずしも十分ではありませんので、取り扱いには注意してください。なお、記載内容は情報提供であって、保証するものではありません。